

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1 - 1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
発行日 毎月 1 日
平成 29 年 1 月号



平成 29 年の新春を迎えて



公益社団法人千葉県園芸協会
理事長 間 洩 誠 一

新年、明けましておめでとうございます。

皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、会員の皆様方には、日頃、当協会の業務運営に多大なる御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、千葉県は、温暖な気候と豊かな大地、そして首都圏に位置する恵まれた立地条件に加え、生産者の高い技術力と関係機関のたゆまぬ努力もあり、全国屈指の農業県として発展を続けていますが、農産物の消費ニーズが多様化し目まぐるしく変化する中で、マーケット需要への的確な対応が強く求められています。

そのため、協会では、生産者や J A グループ、関係機関が密に連携した「オール千葉」体制を構築し大口需要に対応することで、国内外の産地に打ち勝てる産地づくりに取り組んでいます。

主な取組としては、生産振興対策の基幹事業である園芸産地強化事業において、本県の主力品目であるトマト、ねぎ、にんじん、さつまいもを中心に、販促ポスターや出荷時の共通シール、量販店の売場へ設置するスイングポップなどの産地共通販促資材の作成や、産地合同での市場や量販店における試食宣伝会、目揃い会の開催など、全県で統一した販売促進活動に取り組んでいます。

これらの取組により、トマトを例にとると、主要市場対象のアンケート調査結果では、約 8 割の市場から「品質が向上した」との高い評価を得ることができ、徐々にではありますが、取組の成果が実需者の評価へつながってきています。今後も引き続き、産地連携の強化に向けた取組を充実させてまいります。

もう一つの柱である農地中間管理事業においては、現地推進員を 5 名から 7 名に増員し、地域の推進体制を強化するとともに、米などの現物での支払い希望が強い農地所有者については物納ができるよう、また、農地所有者からの要望により借受期間を 5 年まで短縮できるよう事務手続きを変更するなど、農地貸借の拡大に努めています。

平成 29 年度は、推進体制を更に強化し、地域リーダーの発掘・育成にも力を注ぎ、制度周知の徹底と農地情報の収集などに努めてまいります。

その他、担い手への就農支援や 6 次産業化の推進、市場価格の下落時に差額補給する価格補償事業などの各種事業にも積極的に取り組んでまいりますので、関係者の皆様には、今後とも一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

終わりに、皆様方の御健勝、御活躍をお祈り申し上げます。年頭の挨拶といたします。

千葉県における農業生産工程管理（GAP）の普及・推進について 「農業分野におけるリスク管理研修会」を開催

安全農業推進課 肥料・農薬班
副主査 黒住 憲司

農業生産現場では、栽培から出荷に至る様々な工程の中に経営を脅かすリスクが潜んでいます。農業生産工程に潜むリスクをあらかじめ分析・改善する手法である農業生産工程管理（GAP）（以下、GAP）に関する研修会を開催したので、その概要を紹介します。

1 はじめに

本県では、農薬の不適正使用や農作業事故が毎年のように発生しており、これらのリスクへの対応は農業経営を継続する上で大変重要です。

そのため県では、平成 28 年 3 月に策定した「千葉県における農業生産工程管理（GAP）推進方針」により、国が提示する「農業生産工程管理（GAP）の共通基盤に関するガイドライン」に基づく GAP を県内に広く普及・推進しています。その中で、各地域に推進産地を選定し普及を図っているところですが、関係者の GAP に対する理解はまだ十分ではありません。

そこで、指導者・生産者の双方の立場から GAP を学ぶため、11 月 1 日（火）に県農林総合研究センターにおいて「農業分野におけるリスク管理研修会」を開催し、生産者や J A、市町村、県関係者など 79 名が出席しました。

2 講習内容

指導者として(株)ベジテックの徳留康幸氏、生産者として富里市でコマツナを周年出荷している斉藤知秀氏（第三者認証 GAP である J G A P 認証取得）に講師をお願いしました。

徳留氏は「GAP とは農場にとってマイナスなことが起こらないよう改善すること。指導者は毎回テーマ（農薬の保管など）を決めて、農家自らリスクとその改善策を見つけられるようアドバイスし、良くなった点はきちんと評価することが大切。」と説明し、生産者に向けて「まずは農場の整理整頓から始め、必要なことは記録しましょう。」と呼びかけました。

斉藤氏は、「GAP を始めると農場の整理・整頓が進み、適切な記帳により経営全体が見通せるようになった。GAP を導入してマイナスなことは何もない。ぜひ身近なところから取り組んで欲しい。」と呼びかけました。

出席者からは「GAP は有利販売につながるのか。」などの質問が寄せられ、斉藤氏は「出荷先の信頼確保につながった。」などと説明しました。

指導者と生産者、双方の立場から GAP の取組について学ぶ機会となり、今後 GAP の普及・推進に生かされると期待しています。



熱心に講義を聞く参加者

3 今後のGAPの情勢と普及・推進について

農業経営におけるリスク管理手法として大変優れている GAP ですが、流通業界からは農産物の安全性を担保する仕組みとして注目されています。

国では、2020 年東京オリ・パラ大会を契機に、流通業界から一定レベル以上の GAP の取組を求める動きが加速すると予想しています。

千葉県では流通業界の動向にも注目し、関係機関と連携して、今後も GAP の普及・推進に積極的に取り組んでまいります。

頑張る産地



花と緑の生産者紹介 2016 秋 in ちば ～千葉の豊富な花と緑をPR!!～

海匠農業事務所 改良普及課
主任上席普及指導員 鈴木 純也

切り花、鉢花、植木、観葉の花き生産者の有志が行っている「花と緑の生産者紹介」が成田市内のホテルで開催されました。今年は若手生産者の出展が増え、千葉の豊富な花と緑を来場者にPRすることができました。

花と緑の生産者紹介も回を重ねるごとに、市場や小売店等にも広く認識されるようになり、花き生産者のネットワークの構築と、自らの経営改善や地域の後継者を包括的に育成する貴重な場となっています。

1 花と緑の生産者紹介 2016 秋 in ちば について

ちば花と緑の会主催の「花と緑の生産者紹介 2016 秋 in ちば」が、11 月 2 日（水）に成田ビューホテルで開催されました。

当日は県内各地から会員以外生産者も含めて、38 団体 80 名の花き生産者が、鉢花・観葉・切り花・洋らん・鉢植木など自慢の商品を展示し、全国から参加した花き市場・小売・関係者 99 社、158 名の来場者と商談や情報交換を行いました。今回は来場者と生産者がより多く情報交換ができるような企画も新たに実施しました。

各ブースでは情報交換や商談が積極的に行われ、千葉県の花植木の豊富な品目を来場者に PR することができました。

2 生産者紹介の企画運営について

「花と緑の生産者紹介」は、千葉県の花き生産者有志が、消費者に喜ばれる商品を生産し、有利販売につながるよう 2003 年に始まりました。現在は 2006 年に生産者紹介の実行委員の有志により設立された「ちば花と緑の会」（会員 31 名、印旛、香取、海匠、山武、君津地区）の会員が中心となり運営しています。

年間 10 回以上行われる役員会、定例会、実行委員会には、農業事務所職員も加わり、生産者と行政が一体となって展示会や研修会などの企画運営を行っています。生産者の出荷場で行われ

る会議では、花植木業界の動向について、部門を超えた情報が行き交い、若手生産者の勉強の場にもなっています。

3 今後の取組について

花と緑の生産者紹介も回数を重ね、展示者のプレゼンテーション能力も向上し、市場や小売店等にも広く認識される展示会となりました。一方で展示参加者数が横ばい傾向であったため、今回は新規展示者の確保を積極的に進めました。その結果、会員外の若手生産者の出展が増え、更なる活性化が図られました。

今後は、ネットワークで結ばれた花き生産者が、地域全体で主体性のある生産・販売戦略を持ち、全国の流通販売業者に情報発信を行い、全国をリードする産地として、時代に合わせた花作り、販売ができるように引き続き活動していきます。



展示会の様子



秋から春にかけて楽しめるパンジー・ビオラの選定 (第 61 回全日本花卉品種審査会)

農林総合研究センター 花植木研究室
研究員 中島 拓

第 61 回全日本花卉品種審査会として秋から春にかけて開花し続けるパンジー・ビオラの選定が行われました。1 等の「ビビ オーシャンブルー」をはじめ、入選した 6 品種・系統は厳寒期も鮮やかな花が咲き続けます。

1 はじめに

パンジー・ビオラは秋から春の定番の花壇苗として消費者に定着しており、安定した流通・消費量が見込める品目であることから、各種苗会社から多数の品種が販売されています。近年消費者や流通業者から秋に植え付けてから冬の間も休むことなく、春まで咲き続ける品種に注目が集まっています。

そこで、秋から春まで咲き続けるパンジー・ビオラを対象とした新品種、若しくは種苗会社が育成している途中の系統について審査を行う第 61 回全日本花卉品種審査会（社）日本種苗協会主催）が農林総合研究センターで開催されたので、その結果を紹介します。

2 耕種概要

審査は種苗会社 6 社から出品された 19 品種・系統を対象に行われました。各社から出品された 3.5 号ポット苗を平成 26 年 10 月 16 日に千葉市緑区の農林総合研究センター内の露地圃場に植え付けました（表 1）。

表 1 試験区の耕種概要

定植日：平成 26 年 10 月 16 日
栽植規模：1 区 35 株、2 反復
栽植様式：畝幅；1m、区幅；1.5m 1 株当たり 20cm 角、5 条植え
施肥：基肥としてエコロング 424-180 (14-11-13) を 10 アール当たり 10 キログラム 磷酸安加里 S604 を 10 アール当たり 3 キログラム
審査日：平成 27 年 2 月 17 日
管理方法：定植後 7 日以内に欠株のあった区は補植し、それ以降は成り行きとした 花殻の除去を平成 26 年 11 月 26 日～12 月 3 日と平成 27 年 2 月 3 日～10 日の 2 回行った
薬剤散布：殺虫・殺菌剤を農薬使用基準に従って適期散布した

圃場定植直後の 10 月中旬から審査が行われた 2 月中旬にかけての気温及び降水量はほぼ平年並みに推移しました。そのため、今回の審査は平年並みの気象条件で圃場に定植した際の評価となりました。

3 審査内容・結果

平成 27 年 2 月 17 日に国の研究機関、地方公設試、

種苗会社等から選ばれた審査委員 13 名により立毛状態での生育の揃い、花の美しさと花数の多さ、低温による葉の萎れや変色等について、100 点満点で評価しました。

審査の結果、「ビビ オーシャンブルー」（タキイ種苗（株））、「TP-673」（タキイ種苗（株））、「1085」（（株）ムラカミシード）、「SK1-852」（（株）サカタのタネ）、「371」（（株）ムラカミシード）及び「EP-287」（タキイ種苗（株））の 6 品種・系統が入賞しました（表 2）。

表 2 第 61 回全日本花卉品種審査会入賞品種・系統

順位	得点	等級	品種（系統）名	出品社	花色
1	84.45	1 等特	ビビ オーシャンブルー	タキイ種苗（株）	青色・ブロッヂ有
2	83.55	2 等	TP-673	タキイ種苗（株）	黄色・ブロッヂ有
3	82.73	2 等	1085	（株）ムラカミシード	明るい黄色・ブロッヂ無
4	79.82	3 等	SK1-852	（株）サカタのタネ	黄色・ブロッヂ有
5	78.91	3 等	371	（株）ムラカミシード	上弁濃紫・下弁黄色
6	78.82	3 等	EP-287	タキイ種苗（株）	黄色・ブロッヂ無

注）立毛審査結果（平成 27 年 2 月 17 日に官公庁、種苗会社等の職員 13 名で審査）

入賞した品種・系統はいずれも冬期間に安定して開花し、生育の揃いが良く花の傷み等も少ないことから、秋から春にかけて長期に観賞できる花壇苗として消費者へ提供できるものと考えられました。

4 おわりに

消費者が花の購入時に求めるポイントの一つとして「観賞期間の長さ」が挙げられており、これに応える品種が各種苗会社から販売されています。今回入選したものの中には審査では系統番号でしたが、現在は新品種として販売されているものもあります。

今後もパンジー・ビオラの安定した需要を確保するには、消費者が求めるニーズを捉える必要があると考えられます。生産者の方々も新品種導入の際には「観賞期間の長さ」を考慮した品種を選定していく必要があるかと思われます。



DNA 鑑定によるピワ品種識別技術

農林総合研究センター 生物工学研究室
上席研究員 渡邊 学

遺伝物質である DNA 情報を利用して、千葉県育成の種子なし品種「希房」を含む登録品種や市場流通品種等の計 35 品種・系統のピワを、識別できる技術を開発しました。

1 品種識別技術の必要性

千葉県は世界初の種子なし品種である「希房」等、優良品種を開発しております。千葉県オリジナル品種に対する信頼性の確保と品種育成者権の保護のために、本県で育成した品種を正確に識別できる技術の開発が求められています。そこで DNA に着目した品種識別技術を確立することになりました。以前千葉県では「希房」を育成した時に DNA を利用した品種識別技術を開発しましたが、その後新品种が開発され、それらも含めた識別技術が必要となり本技術開発に取り組みました。DNA の違いを比較して識別するため、新品种が開発されれば必ず対応しなければなりません。

2 なぜ DNA 鑑定？

通常、品種の識別は果実の収穫期や形・果皮色などの形質から見た目ですべて判定してきました。この方法では、品種間の違いを確認することは容易にできますが、品種を特定することは困難です。



いろいろな品種のピワ果実

しかも、これらの形質は日照時間や気温といった環境に影響を受けてしまうため、熟練者でも品

種を判定するのは難しく、判定をする人の主観が入ってしまうこともあり得ます。一方、DNA による品種識別は DNA の特徴を科学的に調べるため、判定に個人の主観が入ることはなく、設備さえあればマニュアルに従って鑑定することで識別が可能です。

3 DNA 鑑定

本技術は犯罪捜査やヒトの親子鑑定に用いられている『SSR マーカー』を使用しています。原理としては、DNA の違いが多い部分(ピワの場合は 12 か所)に着目し、その違いを品種間で比較することで識別します。これにより表の 35 品種・系統を全て識別することができました。また、鑑定に必要な検体は果皮又は葉が 0.1g 程度です。

表 品種識別可能なピワ 35 品種・系統

長生早生	涼風	長崎早生	田中	Dahongpao
里見	陽玉	茂木	大房	Wanhong
房光	麗月	楠	瑞穂	Zaohuang
白茂木	希房	土肥	津雲	3N長崎17
富房	涼峰	奄美白	室戸早生	3N長崎30
田茂	なつたより	福聚院	大竜	4N田中-1
房姫	はるたより	戸越	天草極早生	4N楠2

4 終わりに

本技術により千葉県オリジナル品種に対する信頼性の確保と品種育成者権を保護することができます。また、配布苗の品種管理や接ぎ木の場所が分からなくなった時の確認など応用も可能です。

開催結果



第 4 4 回千葉県植木共進会開催結果

生産振興課 園芸振興室

生産者の技術向上と消費者の植木類に対する認識を深めてもらうことを目的に、10月28日～30日、匝瑳市の(株)八日市場植木センターで第44回千葉県植木共進会が開催されました。206点が出品され、高い植木生産技術を競い合いました。

1 概要

造形の部13点、規格物・鉢物の部130点、特殊樹の部60点、グランドカバープランツの部3点の合計206点が出品されました。本年は、度重なる台風の襲来や長雨など、天候不順が続きましたが、農林水産大臣賞を受賞した天目松は赤い幹肌と葉の緑、幹の曲線、樹形のバランスが非常に美しく、正に日本が世界に誇る逸品と言えるものでした。長い時間をかけて丁寧に管理されており、努力が見て取れる秀品でした。



農林水産大臣賞を受賞した天目松



審査の様子

2 受賞者一覧

賞名	所属組合	部門	樹種	受賞者氏名
農林水産大臣賞	東金	造形	天目松	松崎善一
千葉県知事賞	匝瑳	造形	マキ	伊藤良行
千葉県議会議長賞	匝瑳	規格物・鉢物	クロガネモチ	伊藤 清
千葉県農林総合研究センター長賞	匝瑳	規格物・鉢物	台杉	川口茂人
千葉県海匝農業事務所長賞	本納	規格物・鉢物	ゴールドライダー	中村正直
匝瑳市長賞	匝瑳	規格物・鉢物	黄金マキ	山崎進一
匝瑳市議会議長賞	匝瑳	造形	八房五葉松	平野量載
(公社)千葉県園芸協会会長賞	個人	造形	赤松	川口正樹
千葉県農業協同組合中央会長賞	旭	特殊樹	フィリフェラオーレア	崎山晃栄
全国農業協同組合連合会千葉県本部長賞	創樹	規格物・鉢物	アメリカテマリシモツケディアボロ	大宮新悟
千葉県JAバンク運営協議会議長賞	個人	グランドカバープランツ	ブルーカーペット	三須清貴
千葉県農業会議会長賞	個人	規格物・鉢物	ベッコウマサキ	越川一郎
(一社)千葉県造園緑化協会会長賞	創樹	特殊樹	ソヨゴ	鈴木隼人
千葉県造園建設業協同組合理事長賞	個人	造形	ハイビヤクシン	川口光子
(公社)千葉県観光物産協会会長賞	匝瑳	特殊樹	フェイスジョア	伊藤 清
ちばみどり農業協同組合長賞	匝瑳	規格物・鉢物	トキワマンサク	高橋勝哉
千葉県植木生産組合連合会長賞	匝瑳	特殊樹	赤花アセビ	椎名康裕